学校番号	2101

平成３１年度　家庭科

教科	家庭科	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	子どもの発達と保育　育つ・育てる・育ち合う　（教育図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「子どもの発達と保育」は専門科目です。必履修科目で、保育に関する基礎・基本的な知識、また、裁縫や調理の基礎・基本的な知識・技術を身につけた上で選択してください。授業では、作品制作実習や班での調理実習があります。実践的・体験的な学習を通じて、学んだことを自分の生活に活かしましょう　　。

2　学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達や子育て支援について感心をもち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見出し、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	子どもの玩具製作や、離乳食・幼児食実習学習、衣服の着脱実習などを通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身につけている。
評価方法	・学習状況の観察（実習を含む） ・ワークシート等の記述 ・実習の記録 ・自己評価　等	・学習状況の観察（実習を含む） ・ワークシート等の記述 ・実習の記録 ・自己評価　等	・学習状況の観察（実習を含む） ・ワークシート等の記述 ・実習の記録 ・自己評価 ・被服実習の作品の評価 ・定期考査・実技テストの結果　等	・学習状況の観察（実習を含む） ・ワークシート等の記述 ・実習の記録 ・自己評価 ・被服実習の作品の評価 ・定期考査・実技テストの結果　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月	子どもの発達の特性	○生涯発達における乳幼児の重要性 ・乳幼児の大切さ ○発達と環境 ・発達を支える環境 ・発達と環境 ・多様な環境の中で育つ子ども ○おもちゃ製作 ＜アーム人形＞	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	a:子どもをどのような存在としてみているか、自分なりの考えを持っている。 b:人間の一生をライフサイクルとしてとらえ、人とのかかわりがいかに大切かを認識している。 c:子どものおもちゃを手縫いで丁寧に縫うことができる。 d:子どもを取り巻く環境には様々システムがあることを理解し、そのかかわりの大切さを理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 作品制作
5月	子どもの発達過程 子どもの生活	○おもちゃ製作 ＜アーム人形＞ ○身体発育と運動機能の発達 ・発育と発達と成長 ○乳幼児期のからだの発育 ・乳幼児期の発育の特徴 ・乳幼児期の生理的特徴 ○乳幼児期の発達の特徴 ・乳幼児期の発達 ・乳幼児期の感覚・運動機能の発達 ○人間関係の発達 ・人との絆(愛着関係)の形成 ・自立と対人関係 ○心の発達 ・情緒の発達 ・認知機能の発達 ○子どもの健康と生活 ・大人の役割は ・基本的な生活習慣の習得 ・社会的な生活習慣の習得	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:将来、親や保育者になったときに必要な知識を学ぶという姿勢を持っている。子どもの発達によい環境は何かということについて、積極的に考えて学習に取り組んでいる。 b:「子どもが育つ」ことの重要な点は人間として豊かに育つことであることを認識している。発育の個人差を考えることができる。 c:乳幼児の生理的特徴が成人と大きく異なることを具体的に説明できる。子どもにとって安全基地としての親の役割を説明することができる。 d:精神発達が、子どもの素質と環境の相互作用によるものであることを理解している。新生児でも視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚などの感覚機能はすでに発達しており、これらが言語・知的能力・好奇心等の発達にも関係することを理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 作品制作

6月	子どもの生活	○子どもの食事 ・栄養と食生活 ・乳児の食事 ・離乳 ・幼児の食事 ＜離乳食・幼児食実習＞ ○子どもの衣服 ・衣服の役割と条件 ・衣服の選択 ・衣服の調節 ・おむつ ＜おむつの吸水実験＞ ○子どもの遊びと生活 ・子どもの遊び ・子どもに身近な児童文化財	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	a:子どもの生活を学ぶ中で様々な課題や問題点を考えようという態度がみられる。 b:食事が生活習慣の形成や心の発達に及ぼす影響を認識している。遊びが子どもにとって新しい自己実現のための創造活動を促す原動力になるという考え方をもっている。 c:乳児・幼児食を作ることができる。乳幼児に適した被服の材料、設計について理解し、選択することができる。 d:子どもが健康な状態とはどのような状態かを理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査 実習観察
7月	子どもの生活 子どもの保育 子どもの福祉と子育て支援	○子どもの健康管理 ・子どもの健康を守る ・子どもの病気・予防 ・病気の子どもの看護 ・現代の子どもの健康 ・応急処置と救急用品 ・心の健康 ○保育の意義と目標 ・保育とは何か ・保育の目的と目標 ○保育の方法 ・子どもの健やかな育ちを支える ・発達過程に応じた保育 ○子どもの福祉 ・児童福祉の理念と関係法規・制度 ・福祉にかかわる施設 ○子育て支援 ・これからの子どもの福祉	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:保育の意義について、自分自身が親になることを考えるなど、自分の問題として捕らえる態度がみられる。子どもの生活をとりまく環境について、改善の方向性や具体的な改善策を考えながら学習に取り組んでいる。 b:子どもが「育つ」過程を理解する中で、子どもの成長の本質を考えることができる。 c:保育のめざす「生きる力」について、自分自身の考えを交えながら話し合いをすることができる。 d:保育の目標と保育者から子どもへの働きかけの重要性を理解している。子どもの主な病気と看護の方法を理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査
8月		前期期末考査						

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。